

第19回ビジネス講座

「日本の交通政策における新モビリティサービス・ MaaS活用の可能性」～国内外の事例紹介～

概要

日 時 : 令和元年11月11日(月) 15:00~17:25
会 場 : 横浜第2合同庁舎 関東運輸局 1階共用第1会議室
講 師 : モビリティジャーナリスト 楠田 悦子 氏

参加者 : 68 名



【セミナー概要】

関東運輸局交通政策部では、2017年10月より「関東運輸局ビジネス講座」と銘打ち、公共交通・観光・物流・バリアフリー等、運輸局の業務に関係する題材をテーマに、外部より講師を招いて公開講座を開催しています。

2019年度の6回目、通算19回目となる今回は、「日本の交通政策における新モビリティサービス・MaaS活用の可能性 ～国内外の事例紹介～」と題し、モビリティジャーナリスト 楠田 悦子 氏にご講演いただきました。

講演では、ビジネスを取り巻く環境や、暮らしを支える技術やサービスの現状と変化、また、課題解決に向けてどのようにデジタルテクノロジーを活用して行くべきか、具体的な事例を交えてお話しいただきました。

公共交通・移動手段を取り巻く環境や、地域住民の価値観などがこの10年間で大きく変化し、課題を解決するためにデジタルツールをうまく活用して、サービスを組み立てる必要があるとのことで、自動車メーカーも車を作って売るだけではなく、移動サービスの提供を考える時代になるとのことです。

また、欧米では自転車の活用も進んでおり、電動キックボードや小型のモビリティなどの様々なモビリティを活用して行こうという流れだそうです。

また昨今、バスとタクシーの境目がなくなってきており、特にタクシーは配車システムなどのデジタル化が進むなど、大きく変わってきています。

バスについては自動運転などの実証実験が進んできてはいるものの、完全自動運転にはまだ時間がかかり、すぐに人手不足解消につなげるのは難しいとのこと。また、バス事業者の悩みとして、経営企画・計画を作る人も時間もなく、情報の整理やICカードの活用ができていないとのこと、運輸業からサービス業への転換が

はかられていないことから、これからは時代のニーズの変化に合わせて企画・人材育成ができるような体制を整えてゆくことが課題、とのことでした。

また、フィンランドやスイス等の海外の事例や、国内各地で取り組まれている事例を具体的に紹介いただき、日本のMaaSは、移動手段を繋げるだけでなく、都市や福祉、観光等の周辺サービス全体を合わせて考えようというのが特徴で、各種データを使って協働することを考えて行く必要がある、というお話がありました。

今後新モビリティサービスを導入・推進しようと考えている自治体や事業者にとって、先進事例やMaaSの考え方を聞くことができ、大変参考になったのではないかと思います。

【参加者感想】

- ・様々な事例をご紹介いただきながら、MaaSの考え方・活用の可能性について解説してくださりととても分かりやすかったです。
- ・バス事業者として今後のあり方を考える良い機会となった。
- ・自治体の存在意義を考えさせられた。
- ・労働力が不足していく今後に向けて、交通機関がどのような視点で取り組んで行くべきかという考えが大事であると再認識できた。
- ・様々な視点からMaaSの本質を知ることができた。
- ・具体的な事例などが示されていて参考になった。
- ・様々な地域や企業でそれぞれが持つ課題に対応する為、工夫していることが分かりました。MaaSありきというより、まず我々の自治体の課題を見つめ直して、そこに何が活かせるのか、そこも考えます。

